

教区・直属学生担当委員長各位

立教 183 年 4 月 25 日

天理教学生担当委員会

委員長 茶谷良佐

4 月例会 委員長挨拶に代えて

常日頃は、学生層育成の上に心をお掛けくださり、誠にありがとうございます。
今月 4 月と、来月 5 月は学生担当委員会の例会を中止といたしましたので、書面にて
のご挨拶となりますこと、ご了承ください。

3 月の本部月次祭は、直属教会長という立場で、参拝者の代表として参拝させてい
ただきました。

例月ならば、清々しい面持ちで唱和をさせていただくのですが、大変身の引き締ま
る思いで参拝をさせていただきました。そんな中、祭典後に真柱様のお言葉を賜り、
私の魂は喜びに踊り立ちました。（「みちのとも」183 年 5 月号 13 頁を参照）

これまで何不自由なく、させてもらっていたことが出来なくなったことは、そうい
う経験を積ませてあげようという親心なのだと思えた途端、「ありがたいなー。よし、
苦勞をさせてもらおう」と心強く思えました。

また、「みちのとも」5 月号には、表統領先生より「新型コロナウイルスによる大節
を乗り越えるために」と特別インタビューが掲載されています。私は学生担当委員会
委員長としても非常に後押しをいただいたと思います。

表統領先生のお話の中に、先人の話が紹介されていました。（同号の 11 頁を参照）
「小さい助けをするようであれば大きな助けはできるものではない。」という部分に
『ハッ』と気付かされました。

（裏面に続く）

様々な行事が中止になり、何かさせてもらわなければと考えますが、『こんなことしてもいいのかな?』、『できるかな?』と考えているうちに時間が過ぎてしまいますので、とにかく小さなことでもいいから立ち止まらずに前に進んで行こうと思いました。

例えば、私なら大教会直轄の学生さんに電話をする。手紙を書く。そして、現在教会で手作りマスクを作っていることを薦めるなど、まずは手始めにでも、何もしないよりは、何かを始めた方が良く考えます。

実際に電話をすると、その彼はあるスポーツを極めたくて、この春より〇〇高校に通いましたが、休校でしかもクラブ活動もできないと、不満と不安でストレスが溜まっていました。

わずか数分の電話で、非常に些細な行動かもしれませんが、いざという時のつなぎになればと思います。

学生担当委員会では、どこまでも学生生徒修養会、春の学生おぢばがえりを通して、一人でも多くの学生がおぢばに帰ることが、親神様、教祖にお喜びいただけることと信じています。

学生の成人のために一人でも多く参加してくれるよう、今から一人ひとりに小さい動きからでも丹精を尽くさせていただきたいと思います。

今後の動きについては、これまでの動きも大切にしながらも、次回の各行事開催に向けて更なる内容充実を目指して準備を進めていきますので、また楽しみに期待しておいてください。